

器械出し看護師として大切にしている10のこと

1. 器械出し看護師の視点で、患者さんをアセスメントする

術前訪問で得た情報や術前の検査データから、患者さんの状態、予測される状況をアセスメントし、手術に必要な器械・器材を準備します。不明な点は術者に確認して手術内容を理解し、術式変更にも対応できるように準備をします。術前の合同カンファレンスが行われていれば、参加して方針を確認することもできます。

Aさんの場合は、2度目の開腹手術であることから、癒着、出血量が多いことが予測されるため、ガーゼや止血剤（サージセル[®]、タコシール[®]）も通常の手術よりも多めに準備します。開創器のサイズは体型に応

じて準備します。また、門脈合併切除の可能性があるため、血管鉗子や縫合糸の準備を追加します。外回り看護師とも連携をとり、術式変更があった場合について事前に打ち合わせを行い、円滑に対応できるようにします（図1）。止血剤を使用する場合、種類によっては同意書が必要になるため、事前に同意書の有無も確認しておきましょう。

2. 必要な器械・器材の確認と使用方法を理解する

SPD（supply processing & distribution）システムを導入し、物品準備を外部委託している施設もあると思いますが、過不足なく準備されているか最終確認は必要です。使用する器械・器材の取扱いについては、事

前に確認をしておきます。

今回の手術で使用される器械には、超音波吸引装置（cavitron ultrasonic surgical aspirator；CUSA）やマイクロ波手術器（マイクロターゼ[®]）、超音波診断装置（エコー）、超音波凝固切開装置（ハーモニック[®]）などがあります。予備の器械が少ないため、不潔にならないよう取り扱いには注意が必要です。問題が起こったときの対処法や、万が一、使用できない場合、予備の数や代替品として用意できるものがあるかなども把握しておくで安心です。手術に使用する器械は普段から使い慣れているものばかりではありません。今回のみ特別に使う器械がある場合、取り扱い方法だけでなく、洗浄・滅菌方法も確認しておく必要があります。

術前の器械、器材のカウント時には数だけでなく、開創器のネジ、コッヘル釣まで必ず確認します。また、今回の手術では、血管テープなどがX線写真に写らない DISPOSABLE 製品も複数使用するため、体内遺残がないよう取り扱いに注意が必要です。

3. 術野から目を離す時間を極力少なくする

就職して間もないころ、術者や先輩看護師から「術野を見なさい」とよく言われました。最初は見てもわからないかもしれませんが、見るうちにわかるようになってくるのです。ここまできたから次はこの器械が必要で、と準備のために術野から目を離すと、自分では長い時間ではないと思っても、次に見たときにはまったく術野の状況が変わっているということもあるので気をつけましょう。そして、術野をよく見ていると、ちょっとした術者の行動にも気づくことができます。たとえば、渡した針の角度を術者が調節したとき、それを見て同じような角度をつけて準備しておく、もう1本すぐに要求された場合、「同じ角度にしますか?」と言って渡せたら術者は「よく見ている」と思うはずです。器械出し看護師は、常に術野が見える位置に立っています。医師と同じ視覚情報を得ることができるわけです。今、術野でなにが行われているのか



図2 術中の動き
術野をよく見て、目を離す時間はできるだけ短く、医師たちの会話にも耳を傾けます。

を見て、判断して、予測して次の行動につなげていく必要があります。医師がなにを考えているのか、それも先読みしていくことができれば、より円滑な手術進行につなげることができるでしょう。

4. 医師の会話にも注意する

皆さんはどれくらい医師の会話を聞いていますか？なに気なく話している内容や、研修医に説明している内容にもヒントはたくさん潜んでいる場合があります。「ちょっと深いな」とか、「この血管、なんとかしたいな」とか、この言葉からもいつもより長い糸や、鉗子が必要になるかも？とか、血管処理をするかも？と準備を依頼することや、手元であればすぐに渡せるよう準備することができますね。普段と違うものを要求されるけどなぜ？ひょっとして術式変更があるかも？医師の会話からそのような予測ができれば、先回りして必要物品、追加物品の準備や手配を外回り看護師に依頼できます。また、全科の手術器械について把握しているため、「〇〇科で使っている△△という器械がありますよ。」と術者に提案できるのも器械出し看護師の力です（図2）。

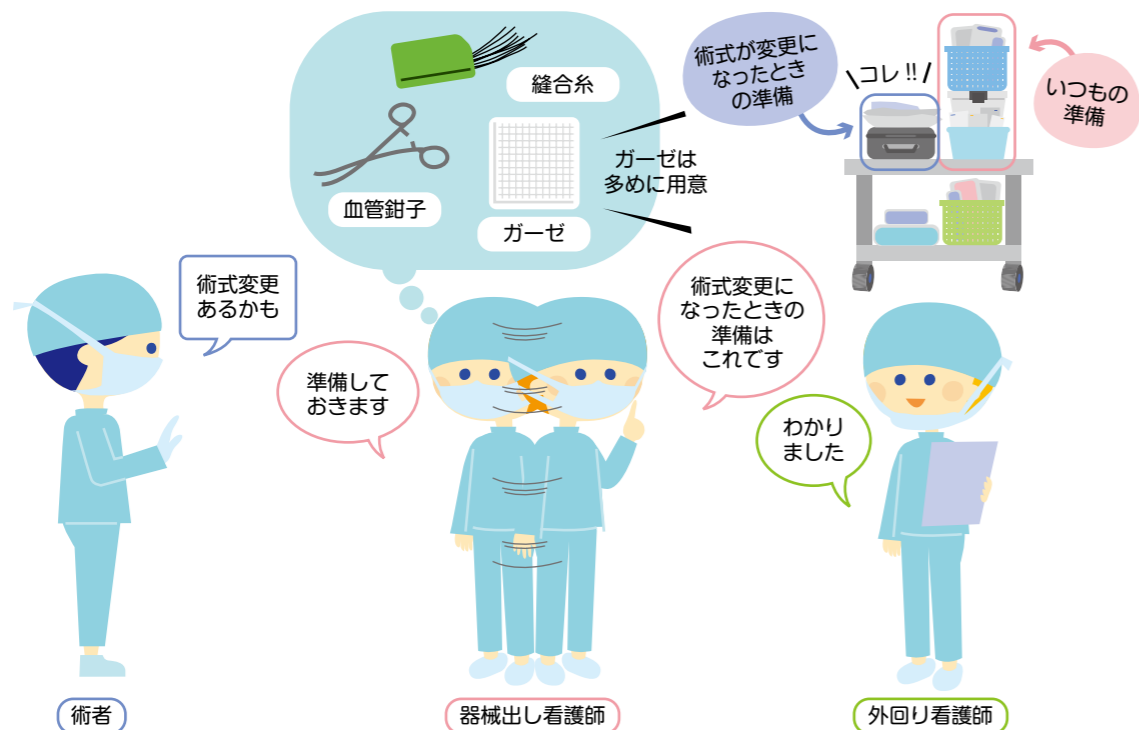


図1 術者・外回り看護師との打ち合わせ
術式変更が予測される場合は、円滑に対応できるよう事前に術者へ確認し、外回り看護師とも打ち合わせを行います。